

問1 日本の東北地方、現在の青森県に位置する縄文時代を代表する遺跡について、その名称と時代の組み合わせとして正しいものを選びなさい。

(2023年 徳島県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------------|------------------|----------------|------------------|
| 1. 三内丸山遺跡 — 縄文時代 | 2. 吉野ヶ里遺跡 — 弥生時代 | 3. 登呂遺跡 — 弥生時代 | 4. 三内丸山遺跡 — 弥生時代 |
|------------------|------------------|----------------|------------------|

問2 約1万年前に地球の温暖化が進んで海面が上昇し、日本列島が形成された時期の生活の様子として、最も適切な説明はどれですか。

(2022年 山口県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 各地で大規模な灌漑施設が整えられ、太陽暦を用いて農作業の時期を管理する生活が始まった。 | 2. 大陸から伝わった稲作が本格的に広まり、収穫した米を保存するために高床倉庫が作られるようになった。 | 3. 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。 | 4. 強力な支配者が現れ、自らの権威を示すために巨大な古墳を築き、その周囲に埴輪を並べるようになった。 |
|--|---|---|---|

問3 縄文時代に作られた、人間をかたどった特徴的な土製品である「土偶」について、この道具が作られた主な目的として最も適切なものを次の中から選びなさい。

(2024年 鹿児島県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|--|
| 1. 大陸から伝わった稲作の技術を広めるための儀式的道具として作られた | 2. 古墳の周囲に並べ、死者の霊を慰めたり境界を示したりするために作られた | 3. 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた | 4. 食料を保存したり、煮炊きを行ったりするための日常的な容器として作られた |
|-------------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|--|

問4 縄文時代に作られた土偶の中には、わざと体の一部を壊した状態で発見されるものがあります。このような特徴から推測される、土偶が作られた目的として最も適切なものはどれですか。

(2023年 香川県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 大陸から伝わった高度な彫刻技術を模倣しようとして、失敗したものを廃棄した残骸。 | 2. 土器を作る技術が未熟であったため、焼成の過程で自然に壊れてしまったことを前提とした観賞用。 | 3. 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。 | 4. 集落間の争いにおいて、倒した敵の姿を土偶に投影し、戦勝を記念して破壊する儀礼用。 |
|--|--|--|---|

問5 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。

(2026年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 石包丁 | 2. 埴輪 | 3. 銅鐸 | 4. 土偶 |
|--------|-------|-------|-------|

問6 北海道にはその土地の自然環境や地形に由来する地名が多く残されています。例えば、世界自然遺産にも登録されている「知床（しれとこ）」という地名は、ある先住民族の言葉で「大地の先」を意味する「シリエトク」という言葉に由来しています。この独自の言語や文化を持ち、北海道や千島列島などに古くから住んでいる民族の名称を答えなさい。

(2024年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|------------|----------|--------|---------|
| 1. 蝦夷（えみし） | 2. アイヌ民族 | 3. 渡来人 | 4. 琉球民族 |
|------------|----------|--------|---------|

問7 縄文時代に見られる「土偶」と、後の古墳時代に見られる「埴輪」を比較した説明として、正しいものはどれですか。

(2019年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。 | 2. 土偶は、弥生時代に稲作が伝わった際に祭祀用として広まったが、埴輪は縄文時代に集落の守り神として置かれた。 | 3. 土偶は、古墳の内部に副葬品として納められたが、埴輪は住居跡から発見されることが多く、日常的な食器として使われた。 | 4. 土偶は、大陸から伝わった金属器の影響を受けて作られたが、埴輪は日本独自の土器文化から発展した石製品である。 |
|--|---|---|--|

問8 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。

(2024年 福島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|-----------|---------|-----------|
| 1. 登呂遺跡 | 2. 三内丸山遺跡 | 3. 岩宿遺跡 | 4. 吉野ヶ里遺跡 |
|---------|-----------|---------|-----------|

問9 約1万以上続いた縄文時代の生活スタイルと、そこで使われた道具の関係について、正しい説明はどれですか。

(2024年 熊本県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 文字が発明されたことで、法律や契約に基づいた高度な都市生活が営まれた | 2. 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた | 3. 大型の石造建築が造られ、それらを装飾するために精巧な土器が発達した | 4. 青銅器や鉄器が普及したことで、大規模な戦争や移動生活が繰り返された |
|---------------------------------------|--|--------------------------------------|--------------------------------------|

問10 縄文時代に作られた、まじないや豊かな収穫、安産などを祈るために用いられたとされる、人や動物をかたどった土製品を何といいますか。

(2019年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|-------|-------|--------|--------|
| 1. 埴輪 | 2. 土偶 | 3. 青銅器 | 4. 石包丁 |
|-------|-------|--------|--------|

問11 山形県の西ノ前遺跡から出土した「縄文の女神」に代表される、縄文時代に作られた土製の人形について、その名称と当時の人々が込めた願いの組み合わせとして正しいものはどれですか。

(2019年 山形県公立入試 類似)

- | | | | |
|----------------------------|-----------------------------|-----------------------|---------------------------|
| 1. 銅鐸 — 稲作の豊作を願う祭りの道具とするため | 2. 埴輪 — 亡くなった王の権威を示し、供養するため | 3. 土偶 — 豊かな収穫や安産を祈るため | 4. 勾玉 — 魔除けや身分を示す装飾品とするため |
|----------------------------|-----------------------------|-----------------------|---------------------------|

問12 約1万年前に氷期が終わり、日本列島の周辺環境が変化した際の様子について説明した文として、適切なものを選択してください。

(2019年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|---------------------------------------|---------------------------------------|--|--------------------------------------|
| 1. 大規模な地殻変動が起こり、日本列島は大陸から切り離されて島国となった | 2. 気候が温暖になり、海面が下降したことで沿岸部に広大な平野が形成された | 3. 気候が寒冷になり、海面が下降したことで日本列島はユーラシア大陸と陸続きになった | 4. 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた |
|---------------------------------------|---------------------------------------|--|--------------------------------------|

問13 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。

(2024年 福島県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。 | 2. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。 | 3. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。 | 4. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。 |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 三内丸山遺跡 ― 縄文時代	青森県で発見されたこの遺跡は、縄文時代における日本最大級の集落跡です。大型の掘立柱建物や多数の竪穴住居の跡が見つかっており、当時の定住生活の様子を詳しく伝える重要な史跡です。佐賀県の吉野ヶ里遺跡や静岡県県の登呂遺跡は、いずれも弥生時代の代表的な遺跡であり、縄文時代には含まれません。
問2	答え 3 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。	氷河時代が終わり地球が温暖化したことで、海面が上昇して日本列島が大陸から切り離されました。この時期から始まる縄文時代では、人々は定住を始め、地面を掘り下げて床とした竪穴住居に住むようになりました。自然環境の変化によって出現した中小動物を射止めるための弓矢が普及し、植物の採集や、骨角器を用いた漁など、自然の恵みを多角的に利用する生活へと変化しました。稲作や高床倉庫は後の弥生時代、古墳は古墳時代の特徴です。
問3	答え 3 豊かな収穫や安産などを祈るための、信仰の道具として作られた	土偶は縄文時代を代表する土製品であり、その多くは女性を模して作られています。当時の人々は、自然界のあらゆるものに精霊が宿ると信じており、食料となる植物や動物の豊作、あるいは子孫繁栄や安産を願うための信仰の対象として土偶を用いていました。古墳時代に古墳の周囲に並べられた埴輪（はにわ）と混同しないよう注意が必要です。
問4	答え 3 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。	土偶の多くが女性を模しているのは、新しい生命を生み出す女性の力が、大地の豊かな実りと結びつけられていたためと考えられています。また、出土する土偶の多くが破損している理由については、自分の病気や怪我の場所と同じ部分を壊すことで、回復を祈る「身代わり」としての呪術的な儀式に使われたという説が有力です。これは当時の人々にとって、土器作りや土偶作りが生活に密着した切実な信仰の一部であったことを示しています。
問5	答え 4 土偶	縄文時代につくられた素焼きの人形は土偶と呼ばれます。豊かな収穫や魔除けなどを祈る道具として用いられました。古墳時代につくられた埴輪や、弥生時代につくられた銅鐸との違いを押さえることが大切です。
問6	答え 2 アイヌ民族	北海道や樺太、千島列島などの先住民族であるアイヌの人々は、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の文化を育んできました。彼らの言語であるアイヌ語は、北海道の多くの地名の語源となっており、「知床」が「シリエトク（大地の突き出た先）」に由来するほか、札幌や小樽などもアイヌ語に漢字を当てはめた地名として知られています。
問7	答え 1 土偶は、豊かな収穫や安産などのまじないのために縄文時代に作られたが、埴輪は古墳の主の供養や魔除けとして古墳時代に作られた。	土偶と埴輪はどちらも人型の土製品ですが、時代と役割が大きく異なります。土偶は縄文時代の狩猟・採集社会において、生命の誕生や自然の恵みを祈る宗教的な道具として機能しました。一方、埴輪は古墳時代に現れ、王や有力者の墓である古墳を飾り、その聖域を守る役割や、葬送の儀礼のために立て並べられました。
問8	答え 2 三内丸山遺跡	青森市にあるこの遺跡は、縄文時代中期から約1500年もの長期間にわたって継続した大規模な拠点集落です。それまでの縄文時代のイメージを大きく変える高度な建築技術や、計画的な集落の配置が確認されました。選択肢にある吉野ヶ里遺跡や登呂遺跡は弥生時代の代表的な遺跡であり、岩宿遺跡は旧石器時代の打製石器が発見されたことで知られています。
問9	答え 2 磨製石器や弓矢、土器などが使われ、自然環境に合わせた定住生活が行われた	縄文時代は、氷河期が終わり温暖になった環境に適応した時代です。すばしっこい小動物を狩るための弓矢や、木の実を加工するための磨製石器、そして食料の加工・保存を可能にした土器など、新しい道具が登場したことで、一定の場所に留まって暮らす定住生活が可能になりました。
問10	答え 2 土偶	縄文時代の人々は、自然界のあらゆるものに靈魂が宿ると考えるアニミズムを信仰しており、食物の豊穰や子孫繁栄を祈るために、女性をかたどった人形（ひとがた）などの土製品を作りました。これに対し、古墳時代の古墳の周囲に並べられた土製品は埴輪と呼ばれ、目的や時代が異なります。
問11	答え 3 土偶 ― 豊かな収穫や安産を祈るため	縄文時代には、女性の姿を象った土偶が数多く作られました。これらは、自然の恵みによる豊かな収穫や、新しい命の誕生（安産）を願う呪術的な道具として使われたと考えられています。選択肢にある埴輪は古墳時代、銅鐸は主に弥生時代に関連する遺物であり、時代や目的が異なります。
問12	答え 4 気候が温暖になり、海面が上昇したことで日本列島は現在の姿に近づいた	約1万年前に氷期が終わり、地球全体の気候が温暖化しました。その結果、大陸の氷河が溶けて海面が上昇し、それまでユーラシア大陸と地続きだった部分が海に沈んだことで、日本列島は現在のような島国の姿になりました。この環境の変化が縄文時代の始まりに大きく寄与しています。
問13	答え 2 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。	三内丸山遺跡からは、栗の木の栽培や魚介類、獣の骨などが大量に出土しており、自然の恵みを巧みに利用して安定した生活を送っていたことがわかっています。水田稲作や高床倉庫、金属器の利用は主に弥生時代以降の特徴であり、巨大な古墳の造営は古墳時代の特徴です。この遺跡の発見は、縄文人が原始的な移動生活をしていたという旧来の説を覆し、高度な定住社会を築いていたことを証明しました。